

A-7

青少年向けスマートフォンでのインターネット利用におけるトラブル抑制ツールの研究

～SNS トラブルの抑制によるネットいじめ・不登校児童の軽減～

A study of trouble suppression tools for young people on internet via mobile-phones

-Reducing internet bullying and school refusal by suppressing SNS troubles-

田中有尊<sup>1</sup>, 時田翔生<sup>1</sup>, 山口祐稀<sup>1</sup>

Ataru Tanaka<sup>1</sup>, Shoki Tokita<sup>1</sup>, Yuki Yamaguchi<sup>1</sup>

Abstract: This paper proposes a Social Networking Service (SNS) checker that reduces SNS troubles for young and suppresses online bullying. The strategy taken to prevent such troubles in this study is to notify young SNS users of the prohibition of sending inappropriate sentences and then to notify it also to their parents. The objective of this study is therefore to prevent troubles on internet and urge young people of safe and secure SNS utility.

1. はじめに

本研究は、現代の社会問題として問題視されている青少年によるネットリテラシーの欠損によるトラブル、またトラブルから発展するネットいじめを抑制するためのツールのコンセプトの試案の模索である。

Figure 1 に内閣府による青少年のインターネット利用環境実態調査の結果を示す。

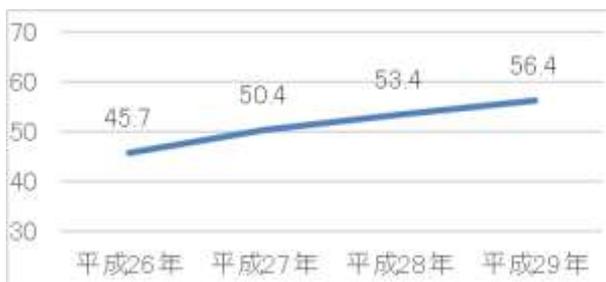


Figure 1. 内閣府による青少年のインターネット利用環境実態調査結果

Figure 1 に示されるように、青少年のインターネット利用率は年々増加しており3年間で10.7%の増加がみられることから、今後 SNS によるトラブルがさらに増加することが予期される[1].

然しながら、急激なインターネット利用増加と各個人のプライベートツールとして普及しているスマートフォンのトラブルに対する対処法やネットリテラシー向上についてはいまだ見込みがつかないのが現状である。

そこで、本論文では、インターネット上のみで関わりのある人および実社会で関わりのある人同士でも気軽にメッセージを交換し合える SNS でのトラブルを防止するためのツールとして「SNS チェッカー」を提案する。

2. SNS トラブルについての実態調査結果

本研究では、以下3つの質問に対する、20歳以上の男女計200名を対象とした SNS トラブルの実態のアンケート調査と集計を行った。

まず、質問(1)「あなたは今までに SNS 上でトラブルに発展したことがありますか?」についての回答を Figure 2 に示す。

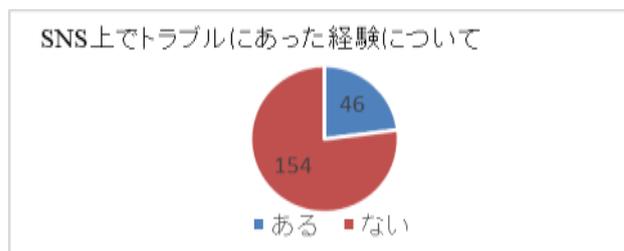


Figure 2. SNS 上でトラブルについて

Figure 2 に示されるように、約4人に1人がトラブルに巻き込まれた経験があることが判明した。

次に、質問(2)「トラブルに発展したことがあると回答した主な理由」に対する回答として、「感情的になってしまった」、「冗談で発言したつもりであったが相手は傷ついてしまった」、「原因はわからない」などが挙げられていた。

さらに、質問(3)「トラブルに発展したことはないが原因となりうる主な行動」への回答として、「感情的になってしまい悪口を言うてしまうこと」、「相手からの言葉に傷ついた」などが挙げられた。

以上のアンケート結果より、SNS 上でのトラブルは日常的に起こりうる可能性が高く、「感情的になってしまうこと」と「軽率な発言」が原因となる可能性が高いため、それらを抑制する必要があると考えられる。

1 : 日大理工・学部・数学

### 3. 「SNS チェッカー」について

「SNS チェッカー」は、SNS トラブルの実態調査の結果から判明した「感情的になってしまうこと」および「軽率な発言」の二つを抑制させることを目的としたツールとして、従来にはない加害者と被害者、およびその両者に対しトラブルの予兆を察知することや、ネット上でのトラブルやいじめを防止することを可能にするものと考えられる。

SNS トラブルにおける原因となる感情は実態調査の結果から「怒り」であることが判明したが、「怒り」という感情はアドレナリンの上昇を引き起こし暴力的・攻撃性を増し冷静な対応を困難にさせることが脳科学の観点からも判明している。また、アドレナリン値の上昇・下降にはある一定期間を過ぎるまでは急激に上昇・下降することも判明している[2]。

そこで、「SNS チェッカー」に SNS でのメッセージ送信の際「怒り」による暴力的な発言や他者を誹謗中傷するようなメッセージが送信された場合にはメッセージの送信を中止するとともに、メッセージ送信者に対して警告文を送り、アドレナリン値が下降する一定時間まで操作ができなくなる機能を設けることが必要であると考えられる。

次に、SNS 使用者と使用者の保護者の関係の現状について、「SNS 使用者の保護者のインターネット利用に対する取り組み」という観点から行ったアンケートの結果を Table 1 に示す[1]。

	総数 n=1768
管理している	84.4%
ネットの管理は行っていない	13.5%
分からない・無回答	2.1%
大人の目の届く範囲で使わせている	31.6%
利用時間などのルール	28.4%
子供向けの機器等を使わせている	12.0%
子どものネット利用状況を把握している	36.1%
フィルタリングを使っている	44.0%
その他の方法で管理している	4.6%

Table 1. スマートフォンにおける保護者の取組

Table 1 に示されるように、子どものスマートフォンの利用について管理している保護者の割合が全体の 84.4% であったのに対し、子どものネット利用状況を把握している保護者は 36.1% に留まっている。つまり、半数以上の保護者が子どものスマート利用そのものについては管理しているものの、状況は把握していない状況に置かれているということが言える。

このような結果から、保護者が SNS での利用上状況を

確認できるようにすることでトラブルの抑制を試みることを提案し、SNS チェッカーの対象者が不適切なメッセージを送信した際に、送信した対象者の保護者と送信された対象者の保護者に対して警告のメッセージを送る機能を与えることが必要であると考えられる。

### 4. 本研究の意義と実現可能性について

「SNS チェッカー」のコンセプトとして、ネットトラブルの防止のために「メッセージ内容の確認」をすることでメッセージが不適切な場合の対処を行うため、プライバシーの保護の観点や悪用の危険性などを加味すると実現可能性は現状著しく低い実態がある。

然しながら、今後学校教育の一環などでスマートフォン・タブレットなどを用いる可能性が高くなっていることを考慮しても、民間・個人としての利用ではなく国の機関が認知し SNS チェッカーを取り入れる場合にはネットトラブルの防止には極めて高い効力を発揮することが期待される。

### 5. むすび

本論文では青少年の急激なスマートフォン利用率の上昇による SNS トラブルから発展するネットいじめの防止について考察したが、まだ考察すべき問題がある。それは、SNS 以外でのいじめ問題である。SNS での規制が強まることでその他の方法での暴力的発言やネット上ではなく現実世界におけるいじめ行為が増加する恐れがある。そこで、いじめを根本的に減らすことができる解決法についても学術講演会当日に発表する予定である。

### 6. 参考文献

[1] 内閣府：「平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf>, 2019 年 2 月。

[2] 瀬戸口 仁：「怒りを味方につける 9 つの習慣」, 日本実業出版社, 2016 年 11 月。